

令和 4年度 新潟市こども創作活動館 利用状況報告書

1. 年間利用者総数 30,403 人 (男 14,373 人 ・ 女 16,030 人)

令和2年4月1日開館以来の延来館者数 83,592 人

年間総開館日数 309 日
 1日平均利用者数 98.4 人

2. 区分別利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
月別開館日数		26	26	26	27	26	26	26	26	24	24	26	26	309	
利用者数	乳幼児	男	163	191	231	293	217	281	277	257	187	301	338	308	3,044
		女	117	156	200	297	246	257	256	284	178	274	349	315	2,929
		計	280	347	431	590	463	538	533	541	365	575	687	623	5,973
		1日平均	10.8	13.3	16.6	21.9	17.8	20.7	20.5	20.8	15.2	24.0	26.4	24.0	19.3
	小学生	男	572	571	541	630	712	783	787	769	627	569	571	828	7,960
		女	520	513	424	545	505	502	594	578	391	411	492	817	6,292
		計	1,092	1,084	965	1,175	1,217	1,285	1,381	1,347	1,018	980	1,063	1,645	14,252
		1日平均	42.0	41.7	37.1	43.5	46.8	49.4	53.1	51.8	42.4	40.8	40.9	63.3	46.1
	中学生	男	89	70	66	114	112	87	115	77	72	43	42	58	945
		女	54	45	43	72	41	35	21	45	6	13	40	66	481
		計	143	115	109	186	153	122	136	122	78	56	82	124	1,426
		1日平均	5.5	4.4	4.2	6.9	5.9	4.7	5.2	4.7	3.3	2.3	3.2	4.8	4.6
	保護者等 (18歳以上)	男	127	162	151	197	199	219	166	236	166	253	274	231	2,381
		女	343	406	472	616	526	596	523	599	419	501	616	666	6,283
		計	470	568	623	813	725	815	689	835	585	754	890	897	8,664
		1日平均	18.1	21.8	24.0	30.1	27.9	31.3	26.5	32.1	24.4	31.4	34.2	34.5	28.0
	ボランティア	男	0	0	0	1	1	3	3	10	2	2	7	14	43
		女	12	1	4	1	0	4	1	12	0	4	1	5	45
		計	12	1	4	2	1	7	4	22	2	6	8	19	88
		1日平均	0.5	0.0	0.2	0.1	0.0	0.3	0.2	0.8	0.1	0.3	0.3	0.7	0.3
合計	男	951	994	989	1,235	1,241	1,373	1,348	1,349	1,054	1,168	1,232	1,439	14,373	
	女	1,046	1,121	1,143	1,531	1,318	1,394	1,395	1,518	994	1,203	1,498	1,869	16,030	
	計	1,997	2,115	2,132	2,766	2,559	2,767	2,743	2,867	2,048	2,371	2,730	3,308	30,403	
	1日平均	76.8	81.3	82.0	102.4	98.4	106.4	105.5	110.3	85.3	98.8	105.0	127.2	98.4	

3. 小学生 学年別利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
利用者数	1年生	男	41	43	31	55	63	49	41	52	47	79	48	51	600
		女	27	31	31	47	64	49	52	69	65	67	77	104	683
		計	68	74	62	102	127	98	93	121	112	146	125	155	1,283
		1日平均	2.6	2.8	2.4	3.8	4.9	3.8	3.6	4.7	4.7	6.1	4.8	6.0	4.2
	2年生	男	39	34	31	43	92	104	100	125	87	72	62	117	906
		女	36	30	34	71	77	84	102	127	76	90	124	173	1,024
		計	75	64	65	114	169	188	202	252	163	162	186	290	1,930
		1日平均	2.9	2.5	2.5	4.2	6.5	7.2	7.8	9.7	6.8	6.8	7.2	11.2	6.2
	3年生	男	134	180	167	171	189	219	226	247	180	145	181	279	2,318
		女	91	67	39	73	70	111	102	127	91	79	93	128	1,071
		計	225	247	206	244	259	330	328	374	271	224	274	407	3,389
		1日平均	8.7	9.5	7.9	9.0	10.0	12.7	12.6	14.4	11.3	9.3	10.5	15.7	11.0
	4年生	男	41	43	47	92	80	124	152	109	115	92	86	102	1,083
		女	100	111	106	118	159	89	92	83	38	41	62	121	1,120
		計	141	154	153	210	239	213	244	192	153	133	148	223	2,203
		1日平均	5.4	5.9	5.9	7.8	9.2	8.2	9.4	7.4	6.4	5.5	5.7	8.6	7.1
	5年生	男	176	127	124	168	170	140	113	74	56	86	108	94	1,436
		女	133	111	79	86	54	46	68	29	30	49	45	88	818
		計	309	238	203	254	224	186	181	103	86	135	153	182	2,254
		1日平均	11.9	9.2	7.8	9.4	8.6	7.2	7.0	4.0	3.6	5.6	5.9	7.0	7.3
	6年生	男	141	144	141	101	118	147	155	162	142	95	86	185	1,617
		女	133	163	135	150	81	123	178	143	91	85	91	203	1,576
		計	274	307	276	251	199	270	333	305	233	180	177	388	3,193
		1日平均	10.5	11.8	10.6	9.3	7.7	10.4	12.8	11.7	9.7	7.5	6.8	14.9	10.3
合計	男	572	571	541	630	712	783	787	769	627	569	571	828	7,960	
	女	520	513	424	545	505	502	594	578	391	411	492	817	6,292	
	計	1,092	1,084	965	1,175	1,217	1,285	1,381	1,347	1,018	980	1,063	1,645	14,252	
	1日平均	42.0	41.7	37.1	43.5	46.8	49.4	53.1	51.8	42.4	40.8	40.9	63.3	46.1	

4. イベント・行事等参加状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
回数	9	10	10	10	9	8	11	10	11	7	9	9	113
大人	28	46	34	40	55	37	52	164	43	38	60	133	730
子ども	91	88	103	179	169	82	100	269	131	70	112	215	1,609
合計	119	134	137	219	224	119	152	433	174	108	172	348	2,339

総括・自己評価

- ・年間来館者数は 30,403 人。コロナ禍であったが休館することなく、年間 309 日間開館することができた。1 日の平均利用者は 98.4 人であった。全体的に小学生の利用が増加し、カード登録をする子も増えた。また、コロナが収まってきた年明けからは乳幼児親子の利用も増えてきている。長期休みには、小規模団体利用が多く、何度も利用してくださる放課後デイサービスの団体もあった。
- ・木戸中運営委員会で話題になった中学生の居場所が地域の中に少ないことを考慮すると、当施設で友達同士が集い、同じ時間を過ごすこと、スタッフとかかわり受け止めてもらえる場があることは、とても大切だと感じる。
- ・今年度、保護者を巻き込んだトラブルやクレームがいくつかあった。全て配慮を要する児童生徒が関わっていた。幼児親子や下学年の子どもたちと交錯した時の言動が原因だった。健康福祉課に報告後は、加害児童生徒の保護者に事実を伝えるなど、連絡を取り合った。現在は、スタッフが複数人で対応し、トラブルの未然防止に努めている。配慮を要する子ども様子については、情報を共有し合っている。
- ・コロナ禍ではあったが、小学生の町探検や中学生の職業体験の要請にはすべて応えた。今年は、夏休みに 2 校の中学校の職場体験があったが、「中学生とあそぼう」でドッジボールをしてから、毎日のように「ドッジボールやろう」という声上がり、学年や学校の垣根を超えた交流ができた。また、3 月には「子ども会議」を実施した。子どもたちの主体性を大切に、館運営に活かしていく。今後も地域の子どもの施設として教育の場の活用として貢献できればと願う。
- ・今年度は、2 月 3 月と新潟医療福祉大学の地域貢献活動を利用し、学生と一緒に遊ぶ機会を設定した。若い学生のパワーを肌で感じた小学生は、笑顔で溢れていた。来年度も夏休みや運動部のオフシーズンに計画的に場を設定していく予定である。
- ・コロナが収束に向かったため、当館の運営委員の方を講師に迎え、3 月にこども茶会を再開した。参加者には大好評だった。来年度も伝承文化活動を大切にしていく。
- ・施設周りの草取りは、地域ボランティアの協力を得ることができた。また櫛の木の剪定は数年ぶりに行い、安全な環境整備に努めることができた。
- ・今後も自由来館の施設として、地域の方をはじめ、教育機関と連携を深めながら、子どもの育成に最善を尽くしていく。子どもたちにとっては、学校でもない家庭でもない自由さがあり、見守りと安全が担保されている居場所は、どんな子どもにとって重要である。創作活動館と児童館の両方を特性としてもちながら「地域の保健室」を目指して、これから居心地のよい居場所作りをしていく。そのために、努力を惜しまず、楽しく、スタッフが一丸となって経験と研鑽を積んでいく。

年間運営総括及び来期への課題

- ・今年度もまだまだコロナ禍の中の館運営だった。換気や消毒、密を避けるための人数の基準を設けるなど、スタッフの感染予防も含め、感染対策に配慮した1年だった。また、12月の大雪で利用者が減少したものの、秋から年度末までは、前年度に比べて小学生や乳幼児親子の来館が増えた。特に土日の利用数は、多い時は200人を超え、集いのホールを学年ごとに時間で分けて使う等、乳幼児と小中学生が交錯しないよう安心安全な館運営を心掛けた。
- ・施設に関しては、数年ぶりに檜の木の剪定を行った。また新潟市から新しい看板の設置や全館LEDライトに交換していただいた。遊びホールの物置の扉も新しく入れ替えをしていただき、安全な環境を整え、館を運営することができた。
- ・近年、特性のある子どもの来館が多い。その子たちが来館した場合は、スタッフ同士連携し合い、見守りを行った。それでもトラブルになってしまった時には、双方の話を聞き、保護者に謝罪し、理解を求めた。子どもには、言動について振り返らせ、改善できるように指導にした。このような保護者と子どものトラブルの場合は、健康福祉課に報告し、かかわった子どもの保護者に電話で事実を伝え、利用の仕方について協力を求めた。その後、必ずスタッフ同士で情報共有し合った。

【創作活動、伝承活動の実施】

- ・年間予定していたやきもの教室や制作活動はすべて実施でき、多くの利用者から楽しかったと感想をいただいた。また、コロナが収束に向かい、3月に子ども茶会を再開することができた。来年度は定期的に行う予定である。

【地域と連携した事業の実施】

- ・一番大きいイベントの秋まつりでは、地域のボランティアの方の協力を得て盛大に実施することができた。その他、地域の方には、畑作りや池の管理、草取りなどに尽力をいただいている。近隣の小中学校や大学とも様々な形で連携が取れた。また、社会福祉協議会の助成金やフードバンクからの支援で運営しているおひるごはん食堂も毎月行い、地域ボランティアの方が手伝いに来てくれるようになった。

【子育て支援事業の実施】

- ・毎週火曜日のわくわくタイムの手形アートは人気である。母親たちの参加型イベントを通し、子育て中の母親の気分転換の場となっている。その他のイベントでもこども創作活動館ならではのゆったりした雰囲気をお好む保護者にとって、ほっとできる場所になっていると感じる。

【情報発信】

- ・ホームページを活用し、日常の活動を広く発信した。また、行事便りの学校配布など、広報にも腐心した。来年度はインスタに挑戦する予定である。

【来期への課題】

- ・ミュージックセラピーなど、乳幼児イベントを1年を通して行い、充実させる。
- ・今年度末に行った「こども会議」を定例化し、利用している子どもたちが主体的にこども創作活動館を居心地のよい場所にしようとする気持ちを育む。
- ・小中学校との連携の仕方を探る。大学の地域貢献活動を計画的に活用する。
- ・こども創作活動館を核として、地域の人とつながり、住みよいわが町を実感できる取組を継続していく。